

1 国語

*** 開始の合図があるまで、開いてはいけません ***

試験が始まるまで、下の〔注意すること〕を読んでおいてください。

〔注意すること〕

- 問題用紙のページは10ページまでです。 解答用紙が1枚あります。
- 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 試験時間は、45分です。
- 印刷の見えにくい場合やページがぬけている場合は知らせてください。
そのほかの場合は、質問を受けません。
- 必要なものは、えんぴつ、消しゴム です。

※問いに字数制限がある場合は、句読点等をふくみます。

□ 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の――線部について、カタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

①ここを曲がると兄の会社のシヤタクです。

②シオが引いて砂浜が見えてきた。

③お化けが出そうでキミが悪い。

④外国から皮革製品を輸入する。

問二 次の四字熟語について、()に入る漢字一字を答えなさい。

① 平身低 ()

② 品行 () 正

問三 次の各文の――線部の誤りを例にならって直しなさい。

例 あなたが申し上げた内容しやうじやうを忘れた。
申し上げた ↓ おっしゃった

① 私たちがいつもご覧らんになつてゐる先輩せんぱいの姿とはちがいます。

② 私の先生は毎朝コーヒこーひをいただきます。

問四 次の各文の――線部が修飾しゆしきしている部分を次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

① 僕は昨日デパートで、すごく大きなぬいぐるみを

エ プレゼントに買った。オ

② 大空を渡るカモの群れを見上げて、妹はさびしそうに

オ つぶやいた。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ここで、読書の仕方として具体的なアドバイスをしておきましょう。単に読むだけでなく、感想を書き込んだり、線を引いたり、本を自分だけの「ノート」にしてほしいのです。そうすると、二十歳、三十歳、さらに四十歳や五十歳になって読み返したとき、「自分はあの時こんなことを思っていたのか」と思い起こすことができます。

私自身も、高校生のころに加藤周一著『羊の歌』を岩波新書で読んで、たくさん傍線を引き、あちこちに感想を書き込みました。a、今読んでも懐かしいし、改めて感動するのです。あのころ、こんなことを考えていたのか、と。

実は『羊の歌』には、三十代、四十代のときの書き込みもあり、この本が自分自身の歴史になっています。これこそが「自分の図書館」という意味での「ライブラリー」なのです。中学や高校の時に、このような一生のライブラリーとなる本に五冊でも十冊でもいいからぜひ出合ってもらいたいです。

ちなみに、私が中高生のころに熱中して読んだ本十二冊を、読書案内の形式でまとめてみたのが『理学博士の本棚』（角川新書）という本です。サリンジャー著『キャッチャー・イン・ザ・ライ』（ライ麦畑でつかまえて）やヘッセ著『車輪の下』などいわゆる「中古典」と呼ばれる青春の名著の数々ですが、ぜひこうした① 自分専用のライブラリーを作ってほしいと願っています。

さて、本の読み方としては、「隙間法」をおすすめします。バス・電車の通学の時間や休み時間など、空き時間にカバンから取り出して、

三ページでも四ページでもいいからぱつと読む。高校生が部活までの待ち時間などに岩波文庫を読んでいたらカッコいいです。きっと異性からも注目されます。どの本を読んだらカッコいいか、は若者にとって大事なポイントでしょう。この点を意識して本を選ぶのも、楽しい時間になると思います。

この章では、百年無敵の勉強の土台となる教養の大切さをお伝えしています。教養を身につけるための手段として、まず読書をおすすめしました。では効率よく本を読み、かつ嫌いならずにこなしていくにはどうすればいいのでしょうか。

読書の途中で、難しくてかなわないと思った本は、誰にもあることでしょう。そのときちよつとしたテクニクがあります。本を読んて分かりにくかったら、それは「著者が悪い」と考えるのです。本を読んで理解できないみなさんが悪いわけでは決してありません。

本当に学問を分かっている人は、読者にとっても分かりやすく、そしておもしろい本を書けるものです。そのように書けない著者は、本物の学者ではありません。だから、そういう本は読まないでもよろしい。ただちに読むのをやめるのが正解です。

すなわち、難しいと思った本の九割は著者の書き方が悪いと思ってください。これは私が読書の初心者に対して最初に伝えたい考え方の根本です。たいへん乱暴なようですが、ここには読書の本質が含まれています。

残念ながら、多くの学者は一般の人に分かりやすく書くことは恥だと考えています。難しいから高級だと勘違いしているのです。そんな人に付き合う必要はありません。だから、自分に合わない本は、すぐに読むのをやめましょう。合わないと思ったらただに取り替えるの

です。自分に分かりやすい本に出合うまで、どんどん本を替えて構いません。

読書は「我慢大会」ではありません。世の中には、根気くらべのために書かれたとは思えないような、分かりにくい本があるものです。② そんな本はさっさと放り出してよい。

決して、自分の頭が悪いから分らない、とは思わないでください。世の中には、(X) 本が、必ずあります。だから書店に行つて、自分の目で見て、いろいろ当たつて探してください。学校内の図書室にも良い本があるかもしれません。

そもそも本は、一ページ目から読む必要はありません。今の自分にとって、関心のある所だけ読めばよいのです。必要ないところは、どんどん飛ばし読みしてかまわない。最後まできちんと読む義務はありません。

実は、本を読破することは、勲章でも何でもないのです。自分の興味が湧く所、何となくひらめいた所から読み始めたらいい。そう気軽に考えてください。

確かに、時間がたつたら分かるようになる本も、世の中にはけっこうあります。古典と言われるような本がそうですね。b、世紀の大古典と呼ばれるような本も、自分には関係ないと思ったら無理して読む必要はありません。今は縁がなかったと想着て、あつさり横に置いておきましょう。

もし自分にとって重要な本ならば、年数がだいぶ経過してからでも、自分で再発見できるものです。いつか「ああそうだったのか」と膝を打つことがあるかもしれません。だからその時のために本棚に③ ツンドクのも悪くありません。古典というのは、④ いつか膝を打たれるこ

とを待っている、そういう役割の本なのです。

(鎌田浩毅『100年無敵の勉強法―何のために学ぶのか』による
／一部改変)

問一

部 a・b に入る語として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a ア まるで
ウ すると
エ さらに

b ア だから
ウ その上
イ しかし
エ そこで

問二

線部①「自分専用のライブラリーを作ってほしい」とありますが、これを作ることによって、どのような良いことがありますか。本文をふまえ、解答らんに合わせて二十字以上、二十文字以内で答えなさい。

問三 ― 線部② 「そんな本はさっさと放り出してよい」とありま

すが、なぜですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分に合わない本を読み続けると、難しさをよいことだと考える学者達たちと同類になってしまうから。

イ その難しい本を読み通すだけのかしこさが、読者としての自分にまだないということだから。

ウ 次々に本を取り替かえながら読むことで、確かな読解の力が身についていくから。

エ 分かりにくいことに価値がある、という誤解のもとに書かれているような本だから。

問四 (X) に当てはまる言葉として最も適切なものを次のア～

エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア おもしろくて読みやすくてタメになる

イ 少し読みにくくて挑戦ちようせんしいのある

ウ どんな人にも読み通すことのできる簡単な

エ 辛抱強しんぼうつよく取り組みれば得られるもののある

問五 ― 線部③ 「ツンドク」とありますが、「ツンドク」とは読み

かけの本を読まないまま放っておくことを指します。この言葉の「ツ」を漢字に変えるとき、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 着 イ 積 ウ 罪 エ 付

問六

——線部④「いつか膝^{ひざ}を打たれることを待っている、そういう役割の本なのです」について、後の問いに答えなさい。

(1)「膝を打つ」という慣用句について、最も正しい使い方をしているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友達の家にて「楽にしている」と言われ、くつろいで膝を打つ。

イ 友達がにくたらしく、見えないところで膝を打って仕返しする。

ウ 友達との大げんかの末、不満を抱えたまま膝を打って敗北する。

エ 友達の話を聞いて、事情がよく分かったことによって膝を打つ。

(2)「いつか膝を打たれることを待っている、そういう役割の本」とは、どういう本ですか。三十字以上、四十字以内で説明しなさい。

問七

本文の内容について述べた次のア～オについて、正しいものに○、まちがっているものに×を書きなさい。

ア 本は自分の人生を豊かにしてくれる、とても大切なものだから、汚さず大切に読むべきだ。

イ 自分が将来なりたいものを考え、そのために役に立つ本をよく選びぬいて読むべきだ。

ウ 自分の勉強の土台となるものを身に付けるための手段として、本を読むことは大切だ。

エ 一冊の本を始めから終わりまで読むことによって、初めて理解できることがたくさんある。

オ 本を読んでいる自分というものは、ずっと同じではなく、年月を経て変化していくものだ。

問題は次のページに続きます。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

その年は、五人が揃った最後の夏祭りになったから、水樹はよく憶えている。

正浩と徹が五年生、信也と水樹が三年生、悠人はまだ保育園に通っていた。

水樹は浴衣を着せてもらっていた。白地に赤やピンクや水色のチュールリップが咲いた浴衣。去年までの浴衣が小さくなったので、君子が近所にあるニチイで買ってくれたものだ。①君子が値札を見ながら逡巡している姿をこっそり見ていたので、余計にX大切に思っていた。

「お姉さんになったから」と浴衣に合わせて赤い緒の下駄もY買ってくれた。歩くたびに初めて履いた下駄からカランコロンとくぐもった軽い音がすると、自分が一人前の娘になったように思えた。

悠人を真ん中にして、正浩と水樹は手を繋いで祭りに向かう。境内へは、団地の奥から神社の裏に繋がる山道――裏参道と呼ばれる道を抜けていく方が早い。でも今日は祭りなので、表参道を五人で歩く。

Aは桜、Bはもみじ。参道の並木は季節ごとに色を変える。

Cは生い茂る樹木が参道の石畳を陽と陰のまだら模様にし、風で葉が揺れると石畳の上の光が揺れた。水樹たちのすぐ前を、徹と信也がゆらゆらと歩いていた。長い長い参道は、水樹が体育の授業で走る五十メートルよりずっと長い。正浩や徹や信也なら一気に駆け上がってしまうけれど、水樹と悠人にはちよっときつい。

「まず*1当てもん行こけ」

徹が振り返り、興奮を隠せない様子で叫んだ。財布を持っていけとあれほど君子に言われたくせに、結局ジパンのポケットに百円玉四つをねじ込んでいた。②ポケットに手をつ突つ込み百円玉をじゃらじゃらさせながら、徹が*2上気した顔を正浩に向ける。

「当てもんは最後にしよ。初めになんか食べて、その残ったお金で行こう。そうせんと、徹ちゃんも信也も熱くなって小遣い全部使っちゃうやろ」

正浩がもつともなことを言い、③水樹は大きく頷く。六時を少し回ったところだったが、辺りはまだまだ昼間のように明るく、境内もそれほど混雑はしていない。人通りの少ない今のうちならゆつくり買い食いができる。悠人はめまぐるしく首を動かし、赤地に黒い太字で「たこ焼き」と書かれた暖簾や、豆電球の下で気持ち良さそうに泳ぐ金魚に目を奪われていた。

「悠ちゃん、あれ欲しいい」

繋いでいた手がぐいと引っ張られ、悠人が走り出そうとした。水樹の手は振り払われ、正浩が反射的に悠人を止める。

「あそこ行かう。欲しい欲しい。ピンクのヒヨコが欲しいい」

振り返った信也が、a表情で正浩を見つめた。去年と全く同じ展開になったことに、悠人以外の四人は焦った表情で顔を見合わせる。

「悠ちゃん、あかんねん。ピンクのヒヨコはすぐ死んでしまうんや。前に来た時、悠ちゃんピンクのヒヨコ、家に連れて帰ったん憶えてるか？ 悠ちゃんのお母ちゃん、飼ってもいいよって言ってくれたけど、すぐ死んだやんか。悠ちゃん、泣いてたやろ」

水樹はその場でしゃがみこみ、悠人と視線を合わせた。ピンク、ブルー、イエロー……鮮やかなスプレーで彩られたヒヨコたちは、ラ

ムネ菓子^{がし}を包んでいるセロファンみたいに愛らしい。透明^{とうめい}のプラスチックケースの中で活発に走り回るカラフルなヒヨコの可愛らしい姿^{かた}を見ていると、悠人が欲しくなるのも仕方ない。でも、ヒヨコがちよこちよこと動き回っているのは元氣だからではなく、パニックになっているからで、一羽^わだけ家に連れ帰るとその動きはどんどん*2 緩慢^{かんまん}になっていくことを悠人以外のみんなはしっかりと憶えていた。呼吸を止めた後のヒヨコの硬^{かた}さと冷たさも、忘れてはいない。

一度へそを曲げてしまうと、何時間もひきずってしまう悠人が、一年に一度の祭りの、この段階でぐずってしまったことに、水樹たちは落胆^{らくたん}する。最悪、このまま家に引き返すはめになるかもしれない。

「あかんもんは、あかんのや。わがまま言うな、悠人」

④ 頭の上から叩^{たた}きつけるように信也^{しんや}が叱る。信也の隣^{となり}に立つ徹は、心ここにあらざる感じで、人だかりのできている当てもん屋に視線を集中させている。

「いやや、いやや。悠ちゃん絶対ピンクのヒヨコ欲しいんやあ」

信也にきつく言われたことが引き金となったのか、悠人がついに大泣きを始め、行き交^かう人がじろじろとこちらを見てきた。

「そつかあ。悠ちゃんはヒヨコが好きなんやなあ。ヒヨコ、可愛いもんなあ。抱^だっこしたことあるもんなあ」

泣きやむ氣配のない悠人を、正浩が抱^だき上げる。突然^{とつぜん}体がふわりと浮いたことで、一瞬^{いっしゆん}だけ悠人の泣き声が止^やんだ。体格のいい信也に比べて、正浩は華奢^{きゃしゃ}な体つきをしていたが、それでも軽々と悠人を抱^かえると、背中をとんとんと叩きながらゆっくりと歩き始める。

「悠ちゃん、前に飼ったヒヨコ、大事にしてたもんなあ。タマちゃんって名前つけたもんなあ。卵から生まれてきたからタマちゃんやった

っけ？」

耳元で語り続ける穏^{おだ}やかな口調に、悠人が頷く。Z しやくり上げてはいたが、わめきちらすことはもうない。タマちゃんの記憶^{きおく}がよみがえったのか、b 表情で、悠人が正浩の声に耳を傾^{かたむ}けている。

「お墓、作ったなあ、タマちゃんの」

「……うん」

「悲しかったなあ。死んだ時にはピンクの色、はげてなくなつて。お母ちゃんが、悲しむのはもう嫌^{いや}やから、ヒヨコは飼うのやめよって言わはったやろ？」

「……うん」

「悠ちゃんもそうしようって思ったやろ」

「うん」

正浩に前抱きにされた悠人は落ち着きを取り戻^{もと}し、頬^ほを兄の肩先^{かたさき}にびたりとくっつけている。

c 表情で、信也が二人を見ている。水樹は悠人と目が合うと笑い、おどけた表情を作った。のんびりと歩く正浩の歩調に合わせて、水樹も下駄を鳴らす。カラン、コロン、カラン、コロン。

「なあ悠人。水樹の下駄の音、ゲゲゲの鬼太郎^{きたろう}のと一緒に^{いっしょ}やなあ」

さつき強い口調で悠人を咎^{とが}めたことを反省しているのか、信也がなだめる口調で語りかける。

「もお、はよう行かへんかったら、一等賞が出てまうやんけ。おれは今日こそ超合金^{ちようごうきん}を手に入れると決めとんのやあ。できたらマジンガーZのが欲しいい」

徹が焦^じれたように叫ぶと、

「そしたらみんなでなんか食べよか」

と正浩がゆつくりと、悠人を地面に立たせた。

(藤岡陽子『手のひらの音符^{おんぷ}』による)

〈注〉

*1 当てもん(屋)：祭りの屋台の一つで、的当てゲームをする店。

*2 上気した：興奮して赤くなったということ。

*3 緩慢^{かんまん}：動きがゆつくりしていること。

*4 華奢^{かしゃ}：弱々しく感じられるようす。

問一 — 線部①「君子が値札を見ながら逡巡^{しゆんしゆん}している」とありま

すが、「逡巡」とは「迷うこと」だという意味をふまえ、このときの君子の気持ちを説明したものとして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア** 浴衣は買いたいが値段が高くてどうしようかと迷う気持ち。
イ 値段の割には他にも柄^{がら}のいい浴衣がありそうで迷う気持ち。
ウ 浴衣の値段を割り引いてほしいと言うかどうか迷う気持ち。
エ 浴衣を買えば下駄を新調することはできないと迷う気持ち。

問二 — 線部X「大切に思っていた」、Y「買ってくれた」、Z「し

やくり上げてはいた」のは誰^{だれ}ですか。次のア～カからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| ア 正浩 | イ 徹 | ウ 信也 | エ 水樹 |
| オ 悠人 | カ 君子 | | |

問三 文中の□のA～Cに入る、季節を表わす漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問四 文中の□ a～cに入る語句として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア** 不満の残るような
イ やれやれという
ウ しまったという
エ 何かを思い出すような

問五 — 線部② 「ポケットに手を突っ込み百円玉をじゃらじゃら

させながら」とありますが、この時の徹はどういう気持ちですか。
十五字以上、二十字以内で答えなさい。

問六 — 線部③ 「水樹は大きく頷く」とありますが、この時の水

樹の気持ちを説明したものとして最も適切なものを、次のア～エ
から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 当てもん屋へ行くよりも早く夕食の代わりになるものを食
べに行きたいと主張する気持ち。

イ 徹が夕食よりも当てもん屋を優先しようとするのを引き止
める正浩に賛同する気持ち。

ウ 当てもん屋で夕食を食べるためのお金までを使い果たそう
とする徹に腹を立てる気持ち。

エ 当てもん屋へ行くのを止められたら徹が怒り出すだろうと
正浩を心配する気持ち。

問七 — 線部④ 「頭の上から叩きつけるように信也が叱る」とあ

りますが、信也がこのような態度をとったのはなぜですか。その
説明として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答
えなさい。

ア 祭りに来たばかりなのに、悠人がぐずって帰らなければな
らない事態はなんとか避けたかったから。

イ 悠人の気持ちを变えるには、最初にきつく言って悠人の気
持ちを断ちきった方が効果的だと思ったから。

ウ 悠人がヒヨコにとらわれるということに気付かなかったの
で、その失敗を取りもどそうと焦っていたから。

エ 周りのことを考えずにわがままを言う悠人が嫌になって、
置いていきたい気持ちを必死に押さえていたから。

問八 水樹は二人きょうだいです。水樹の兄は正浩と徹のどちらです

か。正浩であればア、徹であればイの記号で答えなさい。また、
そう考える根拠を本文の記述を具体的に挙げて説明しなさい。

[illegible]

名前	
----	--

受番	験号

[illegible]